

令和 6 (2024)年度宇都宮南高等学校

学校自己評価・学校関係者評価表（各学年）

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
本年度の 重点目標		1 自己有用感・自己指導能力を育む指導 ① 学業指導等を通じた日常的な生徒指導の充実 2 文武両道の奨励 ① 部活動における自己ベストの追求を通じた自己理解、自己発見、自己管理の実現及びレジリエンスと自己有用感の向上 ② 国際理解教育の推進と国際交流活動を通じた多様性への理解及び自己理解の深化 ③ 地域理解、地域連携、地域貢献を通じた視野の拡張及び利他性の育成 3 生徒一人ひとりへの支援の充実 ① 教育相談等を含めた個人面談の充実 ② いじめ・不登校生徒の早期発見・早期対応 ③ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用 4 安全・安心な学習環境の提供 ① 交通マナーや規則の遵守 ② 危機管理の徹底（最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く） ③ 報告・連絡・相談の徹底及びその後の確認 5 教職員の心と身体の健全化 ① 管理職を含めた周囲のサポートと計画的な年休取得 ② 健康診断や再受診などによる健康の保持・増進	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ① 丁寧でわかる授業の実践 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫と改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 新学習指導要領の着実な実施	1 生徒一人ひとりの進路意識の向上 ① H R、進路講話等を通じた進路意識の向上 ② 進路選択の拡大 ③ 学びのポートフォリオの活用	1 働き方改革の推進 ① 教職員一人ひとりの意識改革 ② 持続可能な部活動指導の在り方の検討 ③ 業務の進行管理と円滑な引継ぎ ④ I C T の活用による業務の効率化及び情報の共有化 2 教職員の不祥事防止 ① 風通しの良い職場環境の整備 ② 校内研修の充実
1 学 年	具体目標	○ルールやマナーを遵守し、自立した生活を意識させる。 行動の結果を振り返り自己を成長させる力を身に付けさせる。 ○部活動等に意欲的に取り組ませる。学習との両立に対する目的意識を身に付けさせる。 ○多様性を認め、協調、協働する力を養うとともに、自らの価値を認めあう力を醸成するための働きかけをする。	○課題に対して主体的に解決する力を身に付けさせる。 ○自主学習に向けたスケジュール管理の習慣を身に付けさせる。 ○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。 ○3観点評価を実施し、より良い評価方法を模索する。	○進路資料や情報誌を活用、提供し、進路に対する意識付けを積極的に働きかけていく。 ○学習の取り組みを踏まえつつ、自分自身の特性を見定める力を養い、文理コース選択に生かす。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○配慮を要する生徒を見落とさず、情報共有を徹底する。 ○互いに声をかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒の行動に留意し、不適切な行動があればその場で指摘すると同時に、どのように行動すれば良かったのかを考えさせる。 2) 何を為すべきかを自らに考えさせ、主体的な活動や学びに結びついていくよう助言する。 3) 面談等を通して、情報収集の手段や方法について具体的なアドバイスを心がける。	1) 授業中等に自ら思考・判断する場面をつくり、協働して学習を進める時間を増やす。 2) スタディサプリを導入し、朝の学習だけではなく部活動との両立にも役立てていくことができるよう助言していく。 3) 講習や研修の資料等を必要に応じて回覧・掲示していく。 4) 教科間、学年間で情報共有を行いながら、より良い評価になるように試行錯誤を繰り返していく。	1) 休日や長期休業期間を利用し、オープンキャンパスや見学会等に積極的に参加し、情報を得よう促していく。 2) 生徒個別面談や保護者との情報共有を密に行い、生徒一人一人にあった進路を検討し、方向性や可能性を導き出し、生徒に紹介していく。	1) 些細なことであっても抱えてしまうことが無いよう、学年会や担任打ち合わせなどで情報共有し対応を協議していく。 2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。 3) 分掌に偏りがないかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。
	段階評価	B	B	B	A
	評価理由	1) 先生方が、各クラスの生徒の雰囲気や、一人一人の個性を踏まえながら、共通理解のもと指導に取り組んだ。 2) 全体として、今自分がすべきことを自ら考え行動させるように促している。また学年集会などを通じて、規範意識を持たせて生活を送るよう継続的に働きかける。 3) 各クラスとも適宜面談を実施し、保護者との連絡を密に行いながら個々に応じた対応をしていく。担任を中心に情報の共有に努め、各部署と連携をつくっていく必要がある。	1) 各教科とも、生徒の理解度や進度を工夫しながら授業展開に取り組むことができた。 2) 各教科で適切な活用を考えている。生徒の自主的な利用について、まだ定着しているとは言えず、これからより働きかける必要がある。 3) 講習等への参加は難しかったが、校内研究授業等に各自参加し、新課程の授業展開を考察した。 4) 3 学年すべてが新課程 3 段階評価となり、各学年の評価段階を参考にしながら、国数英を中心に検討している。	1) 長期休業期間を利用し、多くの生徒がオープンキャンパスや見学に参加した。まずは、自らの進路に対して、しっかりと向き合い、将来の展望を見いだす努力があった。継続して情報を示していく。 2) 特に文理選択については、安易に得手不得手で決めることがないよう、多くの先生方にアドバイスをいただきながら、各担任面談を重ねることができた。	1) 各担任がその都度連絡や情報交換を行い、学年会で全体共有している。今後も継続していく。 2) 各クラス正副担はもとより、学年内の円滑な協力関係を心がけた。生徒の遅刻早退などでも連絡・協力して対応していく。 3) 各々の業務を遂行しながら、周囲のアドバイスや協力も意識して取り組む様子があった。他、授業の連携やサポート体制も今後考えていくと良いか。
	学校関係者 段階評価	A A B B A			
	学校関係者 評価理由	[A さん] 教員の情報交換や協力により対応し、生徒の理解度等に応じた授業を展開できたため。6 月も各教科でGWやツール活用など様々な工夫をされていた。 [B さん] 南高校の規範を生徒や保護者に自覚共有をしている。働き方改革においても評価Aとし教職員の情報交換連携サポートの円滑が見ることができている。 [C さん] 先生方の共通理解のもとコミュニケーションを充実させ、3 年間を見通した学年運営の様子をうかがうことができる。また、生徒への細かい配慮を心掛けていることがみてとれる。 [D さん] 具体方策に対して概ね対応できている。 [E さん] まだ進路が決まっていない生徒が多い中でオープンキャンパスや見学等で多くの情報を得るのは生徒にとって有意義だと思います。進学だけではなく職業についても生徒が理解できるような取り組みを希望します。			
2 学 年	具体目標	○協働的な活動を通じて他者から認められ、集団の中に自分の居場所があると感じられる絆作りを進める。 ○自らの生活を客観的に見つめ直し、部活動との両立等を見据えた自己管理ができるよう導く。 ○個人面談等の機会を有効的に活用していくとともに、学年内の情報共有に努めながら生徒の心的支援を行う。	○主体的に問題解決に取り組む姿勢や、それに基づいた手立てを準備し、常に「問題意識を生み出す」という視点で授業を行う。 ○基礎学力の定着と応用力が身につくことを目指し、主体的な学習の習慣化を促す。	○自らの進路について考えることができる力を身に付けさせる。 ○外部模試等の受験において、準備から振り返りまでを習慣化できるよう指導していく。 ○進路情報の提供を積極的に行い、意識の向上を図る。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○互いに声のかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒一人一人に活躍の場を提供し、役割を与え、それを果たした活動・努力を承認・称賛する。 2) 白手帳を活用して生活を記録させることにより、生活リズムの見直しをさせ、改善へと導く。 ○学年を一つのクラスと捉え、「いつでも誰でも誰にでも」を心がけながら生徒の支援に当たる。	1) 学習内容につながる気付きや疑問を持たせる。また、そのことを他者と共有するために表現ができるよう努力させる。 2) スタディサプリや白手帳を活用させることにより、学習の振り返りと習慣化を目指していけるように導く。 ○学年を一つのクラスと捉え、「いつでも誰でも誰にでも」を心がけながら生徒の支援に当たる。	1) 全体に働きかけることと並行して、個別面談等においても情報収集の手段や方法についての具体的なアドバイスを心がける。 2) 模試の振り返り等を行うことで、大学入試等への意識を高めていくと共に学習に対する態度の振り返りをさせる。 3) キャンパス見学やオープンキャンパスに参加させることで、大学進学等への意識を高めさせる。	1) 分掌に偏りがないかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。 2) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。
	段階評価	B	B	B	A
	評価理由	1) 生徒一人一人が自己有用感を感じることができるよう、諸行事等において「褒める」を実践することができていた。さらに面談等を重ねていきたい。 2) 白手帳の活用について、当初目標としていた使用の状況まで指導が至らなかった。 3) 注意を要する生徒に対して、学年での指導体制ができていた。	1) 各教科とも意欲的な指導を展開していただいているものの、特に選抜クラスとそうでないクラスとの間に、学習に対する向き合い方の違いがみられる。学習習慣も主体的とは言えない者が多く見られた。「何のために学ぶのか」を考えずに、「ただやればいい」という生徒がまだまだ多い。 2) スタディサプリの朝学習も 2 年が過ぎ、今後の受験期に向けて活用方法を検討し直す必要がある。	1) 進路目標が具体的に定まってきた生徒が増えたように感じられる。 2) 模試の振り返りが不十分であった。全体への指導も必要であるが、個別面談等の時間をさらに確保していく必要がある。 3) 来年度以降のキャンパス見学のあり方については検討が必要ではないか。	1) 2) 学年内に互いに声をかけやすい雰囲気があり、協力しながら様々な分掌にあたることができた。
	学校関係者 段階評価	A A B B A			
	学校関係者 評価理由	[A さん] 教員同士の声かけや協力により、課題認識を持って各クラス隔たりのない学習に向け取り組んだため。6 月も各クラスで生徒が高い集中力で授業を受けていた。 [B さん] 進路実現につながるキャリア教育にて教職員自らも振り返りが不十分だったとし、問題意識を持って繋げている。中だるみにならないよう生徒に対し中核としての生活意識への面談などの取組みが良い。 [C さん] 進路の目標設定を意識しながら、学力面において充実を図ろうとする様子をうかがうことができる。また、生徒一人一人を学年全体でみていこうとする雰囲気が伝わる。 [D さん] 具体方策に対して概ね対応できている。 [E さん] スタディサプリの導入で予習復習が可能になるのはよいと思います。可能であれば保護者が進捗を閲覧可能にして頂きたい。			

令和 6 (2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表（各学年）

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
3 学 年	具体目標	○学校行事等に全力で取り組ませる。 ○進路実現のために、実力をつけて進学、就職できるよう努力を継続させる。 ○面談をはじめ、普段から生徒との接点を多く設けて、問題点の早期発見に努める。	○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。 ○1・2 学年時の復習から応用力を引き出し、進路希望を実現する力の育成を図る。	○充実した進路指導を行うために、新しい情報を生徒に提供出来るよう努力する。 ○オープンキャンパスへの参加やネットでの情報検索、進路情報室の活用など、自分の進路については自ら動いて情報を仕入れるようにさせる。	○効率よく学年業務が行える様に、業務内容や方法の整備を行う。 ○前年踏襲の意識を排除し、学年団でひとつひとつの業務をよく吟味していく。
	具体方策	1)自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう見守る。 2)広い視野で進路情報を収集させる。1 ランク上の目標を提示し、達成できるよう助言する。	1)授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。 2)演習問題に多く取り組みせ、基礎力のさらなる定着と応用力の育成を図る。	1) 様々な大学等の説明会や研修に参加する機会を設ける。 2) 情報の仕入れ方に関してさまざまなツールをアドバイスして、自分から積極的に情報を収集させるようにする。	1)各系の業務が効率よく行えるように精選や見直しを行う。 2)生徒の成長に真に役立つものは何かという視点から、時代にそぐわないものや効果の薄いものを排除し、より生徒によりそった業務を精選していく。
	段階評価	B	B	A	B
	評価理由	1) おおむね主体的な行動が見られてはいたが、学年集会など、学年全体に周知を図る場を設けることが思ったようにできず、学級単位での連絡になることが多く、結果的に主体的な活動を十分に促せないことがあった。 2) 高い目標に向かって努力した生徒もいたが、どうしても安きに流れてしまう生徒もいた。チャレンジする精神は一朝一夕には身につかないので、長期目標を掲げて学校全体で取り組む必要性を感じる。	1) 進路実現に直結する内容については、主体的、協働的に活動する姿が見られた半面、そうでない場面での落差はどうしても見られた。 2) 進路実現に向けての学習については、おおむねよくより組んでいた。	1) 各種説明会、研修等には担任を中心に積極的に参加し、生徒への情報提供へつなげることができた。 2) オープンキャンパスへの参加やインターネットを用いての情報収集等、多くの生徒が自ら積極的に情報を収集していた。また、面談等でのアドバイスにも耳を傾ける姿が多くの生徒に見られた。	1) 学年の業務なのか、校務分掌の業務なのか、まだ整理のつかない業務がいくつかあるので、学校全体でさらなる見直しをしていけるとよい。 2) 前年踏襲の排除は意識出来ていたものの、やはり前年を踏襲してしまう部分が多々あったように感じる。しかしそれでもなお、これからも前年踏襲の意識の排除の心を持つことが必要である。
	学校関係者 段階評価	A A A B A			
	学校関係者 評価理由	〔A さん〕 教員の積極的な説明会、研修等への参加や的確な進路実現に向けての学習の展開、主体性形成等により、生徒もよく取り組むことができたため。6 月も主体性発揮やプロセス理解等のねらいが見られた。 〔B さん〕 例年通りと思いがちだがその意識排除と学校全体としてさらなる見直しを働き方改革をBと厳しめにして問題意識を持って学校全体に見ていることがよい。3年間南高校生として過ごしてきた生徒と学校のサポート（生徒の自己実現）の関係性ができている。 〔C さん〕 基礎学力の充実も含め、より具体的に進路指導を充実させようとする努力を感じる。保護者会の出席率も非常に高く効果が出ている。また、3 学年が主役となる学校行事においても、先生方の熱意ある指導の様子がうかがえる。 〔D さん〕 具体方策に対して概ね対応できている。 〔E さん〕 時代の流れで業務改善や踏襲の排除は重要かと思います。是非、先生方の取り組みを保護者へ伝えて行く方法をご検討ください。			

1. 段階評価：学校関係者による段階評価も含め、A・B・C・Dの4段階評価
2. 評価基準：【A・・・十分満足できる B・・・概ね満足できる C・・・努力を要する D・・・一層努力を要する】
3. 評価理由は、目標達成に向けた取組の状況や生徒の変容の状況などを視点として記述する。